

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	◎	－	－	－
(四国)	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大に伴う警戒レベルの引上げによる巣籠り消費の恩恵を受けた。
	○	スーパー（財務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大で、外食需要からのシフトが進んでいる。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・前々年より来客数と単価が増加し、売上が上がっている。売上が良ければ景気が良いという簡単な話ではないが、今月の当店の売上は前々年、前年、過去3か月のいずれと比較しても増加している。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・当県の新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているため、宿泊予約の動きがやや良くなっている。
	○	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・来客数は減っているものの、販売数はむしろ増えており、必要な物は購入されている。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク中は想定より客が動いた。今年は梅雨入りが早く湿度の上昇で、髪をメンテナンスする客がかなり増えている。
	□	商店街（事務局長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの第4波は世界中の変異株が混在しており、収束の気配がない。ワクチン接種の進捗状況に社会も経済も翻弄されている。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス対策による自粛期間中のため、人通りは少なく、来客数も少ないが、インターネット注文による宅配が増えた。
	□	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は来客数、客単価共に前年を少し割り込んでいるが、外商売上は前年を維持できている。
	□	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、客が3割程度減少し、売上も比例して減少している。
	□	スーパー（店長）	競争相手の様子	・新型コロナウイルスが経済全体に影響を与えている。良い物を買う客に変化はないが、安い物を買う客が二分化されてきている。安い物を買う客がディスカウントの店に多く流れている。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・前年より来客数は増加しているが、前々年よりは来客数、売上共に減少している。コロナ禍の状況が刻々と変化しているので、はっきりとは分からないが、景気に変化はみられない。
	□	コンビニ（商品担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置で外食産業では営業を自粛しており、地方都市は夜間の人通りが減っている。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛要請により、来客数はかなり少ない。3か月前とほとんど変わらないので、景気に変化はなく、どの業種も同じではないかと感じる。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響なのか全車種併売の影響なのか不明だが、前年比で受注が伸びていない。
	□	その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・大口の客も若干いるが、全体的に客も購入量も少なく、売上が良くない。
□	競輪競馬（マネージャー）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大が続くなか、首都圏中心に緊急事態宣言が継続し、県内ではまん延防止等重点措置を検討する状況にある。消費者は外出自粛や巣籠りが続いており、人出や消費購買力も低水準にある。	
□	設計事務所（所長）	単価の動き	・流通量が減少している関係で、特に木材の価格が上がっており、工事に影響が出ている。	
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・売上が前年同月より少し増加しているが、これは前年の営業日数が新型コロナウイルスの影響で少なかったためである。高齢者へのワクチン接種が開始されて景気は良くなるという期待は持てるが、現状では不透明である。	

	▲	商店街（代表者）	それ以外	・過当競争やコロナ禍、ネット社会など時代環境が変化するなかで、百貨店業界は都市部、地方にかかわらず再生が厳しく消え去りつつある。駅を中心として作り上げてきたこれまでの街づくりは崩壊の危機にある。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの第4波が到来し、ゴールデンウィーク後には、感染者数が急激に増加するとともに自粛ムードが高まったことから、来街者数が激減している状態で、売上も比例して減少している。
	▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数がかかり増えており、警戒レベルが引き上げられたため、その影響を直接受けている。以前に比べて信じられないくらい悪い状態になっている。
	▲	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・今月初旬に県内の感染者数が増えて以降、売上が急激に減少している。前々年度に対して60%程度水準まで落ち込んでおり、かなり厳しくなっている。
	▲	家電量販店（店員）	来客数の動き	・在宅時間が長くなったことで、宅内環境が整ってきたのだと思うが、来客数が減ってきている。
	▲	家電量販店（副店長）	お客様の様子	・前年度はテレワークやオンライン会議などでパソコンや関連商品の販売がかなり伸びたが、今年度は全体的にやや悪くなっている。
	▲	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・例年4～5月は販売量と来客数が落ち込むので、今年もやや落ち込んでいる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・5月の新車受注状況は、新型コロナウイルスの影響で減少していた前年の台数を下回る状況である。
	▲	その他小売 [ショッピングセンター]（副支配人）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数の激増により来客数が激減した月初に比べると、月末は感染が落ち着いてきたので、少し戻ってきたように感じるが、例年と比べると半分程度である。
	▲	通信会社（社員）	それ以外	・当社サービスに対する需要自体は変わっていないものの、訪問営業を自粛しているため、契約件数は大幅に減少している。
	▲	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で来客数が全体的に減少している。
	▲	観光遊園地（職員）	来客数の動き	・特に4～5月は新型コロナウイルス感染再拡大の影響で感染対策期となり、人が動かず、飲食や宿泊、交通、旅行需要が軒並み落ち込んでいた。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染者数が増えてきて、行動を自粛している人が多い。
	×	一般小売店 [酒]（販売担当）	販売量の動き	・納品している全ての飲食店が5月31日まで時短営業か休業しているため、売上が激減している。
	×	百貨店（営業管理担当）	来客数の動き	・県内の新規感染者数増加の影響もあり、来客数が週を追うごとに減少し、滞在時間の短い目的購買の傾向が強くなっている。
	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・イベント中止の影響から週末の人の動きが悪いことや、地元企業の業況が良くないこともあって、前年割れの状況となっている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が収まらない限り、自粛等の繰り返しで、客足は戻らない。
	×	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・首都圏で緊急事態宣言が発出されたことで、宿泊客が全く来ない。当地においても、新型コロナウイルスの感染者数が増加しており、景気が冷え込んできているのが現状である。
	×	旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・店頭での営業を再開したが、客の来店がほとんどなく、ネット予約も1日当たり数件しか入らない。また、既に予約済みの修学旅行等も延期や中止が発生している。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・当県の警戒ステージが引き上げられたことによる飲食店の時短で、閑古鳥の状態である。
企業動向関連	◎	—	—	—
(四国)	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が若干増加している。緊急事態宣言が継続しているため安心はできない状況である。
	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年度に入って、ようやく市の建築工事を受注できた。

	○	輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・全体の数量が増加し、売上高は前年同月を上回っている。ただし、新型コロナウイルスの影響がなかった前々年同月からは4%低く、完全には回復していない。
	○	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・前年の同時期が特に新型コロナウイルスの影響を受け、落ち込んでいたので、前年比ではかなり良い。3か月前と比べると微増である。
	○	税理士事務所	取引先の様子	・前月と比べて売上が増加している。
	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売価格は、統計を取り始めて最も早い梅雨入りになったこともあり、果菜類を中心に入荷減、単価高の傾向にある。ただし、価格をけん引する業務需要が不振であることから、数量の割に単価は上がりきっていない。5月は29日までの累計で、数量が前年比70～80%に対し、単価は105～110%となり農家所得を押し下げている。
	□	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスは収束までに時間が掛かりそうであり、外食、土産物、イベント関連の商材の動きは悪い。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注減少による生産調整のための臨時休業は4月まで実施した。5～6月は予定していないが、受注が回復に転じたわけではない。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・本格的な需要回復時期は不透明な状況が続いている。
	□	建設業（経営者）	取引先の様子	・県内の新型コロナウイルス感染症が、ここ1週間でピークアウトの兆候があり、精神的には多少の余裕が出てきた。当社並びに同業社においては、公私にわたり、行動や移動の制限、自粛の状況に変化はなく、景況感は良くないが、業況自体は堅調であり、経営指標は悪くないので、全体としては変わらない。
	□	金融業（副支店長）	取引先の様子	・ワクチン接種が開始されたとはいえ、新型コロナウイルスの感染状況は一進一退の状況にあり、市況に改善傾向はみられず、各取引先の月次売上や損益状況に回復はみられない。
	▲	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が全国に広がった今日は、前年よりは良いものの、再度厳しくなっている。
	▲	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスのワクチンを保管する保冷庫の需要が一段落し、一過性の特需による注文が落ち着いた。
	▲	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全国的に良い状況とは思わない。
	▲	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍で青果物市場の取引が縮小傾向となり、市況の低迷が長引くなか、早い梅雨入りによる日照不足や病害を危惧した生産者の耕作早じまいが目立つようになり、出荷量が例年よりも大幅に減少している。例年よりも早い梅雨入りが青果物の取扱物量を押し下げるマイナス要因になっていることは間違いない。
	×	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・特に飲食業、観光業向け製品の受注が激減している。
	×	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・県独自の新型コロナウイルスの規制により、イベント等の中止や販売促進広告の急な中止があり、今日は悪くなっている。
雇用 関連  (四国)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・派遣スタッフの採用人数が横ばいである。必要なポジションには引き続き募集がある。
	□	人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス感染対策については、警戒期に引き下げられ、公共施設が運営再開したので、人の動きは増加し、景気も回復が見込まれる。しかし、感染再拡大や変異株に対する恐怖から消費ニーズがどこまで高まるか見込みが立たず、飲食関係の求人活動は消極的な状況である。
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・求人数が伸び悩んでおり、企業の採用のハードルも上がっている。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・4～5月の求人数をコロナ禍以前の前々年と比べると半減しており、回復していない。

▲	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・慢性的な人手不足の業界以外の周辺企業は特に中途採用の人数が減少を続けている。各社とも業績の悪化や景気の先行き不透明感から採用人数を抑えている。
▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスによる経済への打撃が徐々に始まり、直接関係がなさそうな業界でも年度広報予算を下方修正しており、年間通して厳しい状況である。
▲	職業安定所（求人開発）	求人数の動き	・求人数について前年同月を上回ったものの、新規求人数や月間有効求人数は前月より減少した。新型コロナウイルスの感染再拡大の影響で、求人数の減少がみられる業種が多数あった。
×	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、サービス業などの求人は低迷し、製造業も減産傾向であることから求人が少なくなっている。派遣への影響が大きい。